

# 風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2012 冬号

# 61

公益財団法人 和歌山県文化財センター

## 特集 文化財建造物竣工特集



国宝 長保寺多宝塔 正平 12 年 (1357)

当センター文化財建造物課は、県内で複数の文化財建造物保存修理工事の技術指導を行っておりますが、期せずして当節竣工を迎える工事が重なりました。そこで今号の風車ではそれらを一挙に紹介します。

# 特集 文化財建造物竣工特集

## 熊野本宮大社

所在地 田辺市本宮町本宮  
 修理対象 第一殿・第二殿、第三殿、第四殿  
 修理方針 屋根葺替・部分修理  
 修理期間 二〇一〇年六月～二〇一二年三月



重要文化財 熊野本宮大社 第一殿・第二殿 享和2年 (1802)

現在の社殿は、明治三二年（一八八九）の大水害で流失を免れ、翌々年までに旧社地である大斎原から高台の現社地へ移されました。  
 正面柱間五間の第一殿・第二殿、正面柱間一間ではほぼ同規模の第三殿と第四殿の三棟は、いずれも一九世紀の始めに建てられた建物で、部材が大柄な点で共通しています。また、入母屋造の屋根など熊野三山の社殿形式を今に伝える建物として、国の重要文化財に指定されています。  
 今回の修理では、桧皮屋根の全面葺き替えと、屋根下地や棟にのる勝男木や千木の補修の他に、縁廻りや木階を解体して、破損部材の修繕や取り替えも行いました。また、軒廻りや縁廻りに取り付けられた飾り金具には金箔を捺し直しました。  
 平成二三年九月には、台風一二号の被害により工事一時中断しましたが、年度内には無事竣工を迎えて、四〇年ぶりに桧皮



(左) 重要文化財 熊野本宮大社 第三殿 享和2年 (1802)  
 (右) 重要文化財 熊野本宮大社 第四殿 文化7年 (1810)

屋根の美しい姿を見せています。  
 熊野本宮大社では、社殿の保存修理事業に引き続いて、平成二四年度から二五年度にかけて、国指定の史跡地内の整備事業として、神門や神饌所、社殿廻りの鈴門と瑞垣などの建造物群の修理を行っています。  
 (下津健太郎)

# 長保寺

所在地 海南市下津町上

修理対象 大門、多宝塔、鎮守堂

修理方針 半解体修理(大門)、屋根葺替・部分修理(多宝塔、鎮守堂)

修理期間 二〇二一年一月～二〇二二年二月



国宝 長保寺大門 嘉慶2年(1388)

大門は明治四四年(一九一一)に解体修理して以降、台風被害などで数度の部分的な補修はありましたが、約百年ぶりに本格的な修理を実施しました。軒の出が大きいので、次第に軒が下がって、軒を支える部材の変形や破損が目立ちました。修理はまず、土を用いて葺いた屋根瓦を降ろし、その下の野地<sup>のじ</sup>まで解体した状態で、軸組<sup>じくぐみ</sup>部分や軒廻りの高さ調整を行いました。破損した軒廻り部材の修繕、腐朽した野地部材の取り替えを進めて、瓦葺では土を使わず、木製下地と銅板を用いた空葺<sup>からぶき</sup>工法とするこ<sup>と</sup>で、屋根荷重を軽減させました。また、小屋組内では構造的な補強も行い、軒の垂下の抑制を図りました。

多宝塔は昭和三年に解体修理されて以降、大門と同様に小修理を重ね、約八〇年ぶりに本格的な修理を実施しました。屋根瓦の破損箇所が目立ち、その下の木部の破損が心配されましたが、幸いにも小屋組は健全でした。下層北面で軒先部材の取り替えと野地の部分修理を行い、瓦葺は大門と同様の空葺<sup>からぶき</sup>工法としました。破損が目立っていた相輪<sup>そうりん</sup>もいったん解体して修理しています。

鎮守堂は多宝塔と同じく昭和三年に解体修理されており、昭和五四年以来二度目の松皮全面葺き替えとなりました。周辺樹木の生長が著しく、保存修理事業とは別に史跡地内の整備として樹木の剪定が実施されたことで、建物の環境が大きく改善されました。(下津健太郎)



重要文化財 長保寺鎮守堂 鎌倉時代後期

## 金剛三昧院

所在地 伊都郡高野町高野山

修理対象 客殿及び台所、多宝塔

修理方針 半解体修理(客殿及び台所)

屋根葺替(多宝塔)

修理期間 二〇〇八年一月～二〇二二年二月



重要文化財 金剛三昧院客殿及び台所 江戸時代初期

客殿及び台所は経年の劣化により柱が大きく傾斜し、床に不陸が生じていたため、床より下を一旦解体し、腐朽していた柱足元の根継ぎや軸部の修正などを行いました。客殿部分には、美術工芸品として重要文化財に指定されている大広間の金碧障壁画を始め多数の障壁画があり、それらも破損が進行していたため、同時に補修を行いました。また、摩滅が進み耐用年限に達していた桧皮屋根の葺替も行いました。

解体修理に際しては、発

掘調査により前身建物の遺構を確認することが出来たり、年輪年代法を活用してこれまでに想定されていた建立年代を裏付けることが出来たり、建立当時の姿や、それ以後大きく分けて七時期の改変を経て現在に至ることを突き止めるなど、様々な成果を得ることが出来ました。

同時に構造計算を行った結果、軸組が健全であれば



国宝 金剛三昧院多宝塔 貞応2年(1223)

大地震にも耐え得ることが判りました。そこで、根継ぎを施した柱足元など、耐力が低下していた軸部には金具を用いて補強を施しました。また、後世の改変で柱が撤去されていた箇所には、元通り柱を挿入して構造体をより健全にしました。

多宝塔は、桧皮屋根の葺替替えと、下重屋根の上に載る多宝塔独特の意匠である亀腹の漆喰塗り直しを行いました。

(結城啓司)

## 熊野那智大社

所在地 東牟婁郡那智勝浦町那智山

修理対象 第一殿～第六殿、御県彦社

鈴門及び瑞垣

修理方針 災害復旧

修理期間 二〇二一年九月～二〇二二年二月



重要文化財 熊野那智大社 第六殿 御県彦社 江戸時代後期

昨年九月四日未明、熊野那智大社では台風一二号による土砂崩れにより、社殿が建

ち並ぶ境内地が大きな被害を受けました。

しかし被災直後から復興作業が進められ、

同二八日から国庫補助による災害復旧事

業に着手しました。およそ五カ月をかけて

泥土の撤去と土砂崩れ発生部分の石垣の整

備を完了し、年が明けた二月からは、本殿

や瑞垣みずがきなど重要文化財に指定された建造物

の本格的な補修に取り掛かりました。

倒壊した瑞垣や第五殿縁廻りなどの木部、

倒木で傷んだ桧皮屋根の修復、塗装の塗り

替えを実施し、飾金具の修理を終え建物に

取り付け直して、文化財建造物の補修が完

了しました。

今回建物の被害が予想以上に軽微であつ

たのは、社殿が古式ゆかしく木太く頑強に

建てられているだけでなく、室戸台風で同

様の被害を受けた際、十分な修理と適切な

補強が施された結果であることが改めて確

認されました。

並行して進めている青岸渡寺境の東門等

未指定建造物の修理が完了すると、熊野那

智大社にも本来の威容が蘇ることでしょう。

(多井 忠嗣)



重要文化財 熊野那智大社 第一殿～第五殿 江戸時代後期



## 田ノ口遺跡の発掘調査

田ノ口遺跡は、西牟婁郡白浜町十九淵に所在し、標高40m程度の丘陵の西側斜面と、そのふもとに広がる高瀬川東岸の狭小な平野の一部が埋蔵文化財包蔵地として指定されています。

今回、その丘陵斜面(3区)と平野部(1・2区)においてそれぞれ調査区を設定し、発掘調査を実施しました。

1区では、平安時代(10～11世紀)頃のものとのみられる土坑や溝等の遺構を検出しました。土坑9(写真1)は直径3mほどの不定形なも



写真1 土坑9

ので、後世の削平を受けて底までは20cm程度の深さしか残っていませんでしたが、祭祀に伴う遺構と考えられ、1000個体以上の土師器(坏、甕、羽釜)、灰釉陶器(碗、皿)黒色土器等がまとまって出土しました。

1区で出土した遺物は、この土坑9を中心として西方向へと扇状に広がる分布状況を示しており、この遺構に近い位置ほど出土数も多くなる傾向があったことから、1区における出土遺物の多くはこの遺構に関わりのあるものと推定できます。

また、溝からは須恵器のほか、権(棹秤のおもり)と考えられる石製品が出土しました(写真2)。この権状の石製品は高さが8.4cm、重さは756gあります。

3区では弥生時代の竪穴建物跡や、奈良～平安時代にかけての遺構、遺物を



写真2 権状石製品

確認しました。

3区では土師器、須恵器といった土器のほか、約1.5cm程度の小さなものですが、二彩または三彩とみられる、施釉陶器の破片が出土しており、素地となる器の表面にやや白い土を薄くかけ、緑色のものと透明なもの、少なくとも二種類の釉薬がかけられていることがわかります。

施釉陶器も、棹秤のおもりも、当時としては日用品として一般的なものではなく、官衙等の遺跡から出土する例が多いもので、これらの遺物の出土は、この一帯が中央の政権と深い関わる地域であった可能性を示しているといえます。

(寺西朗平)



写真3 土坑66

名勝和歌の浦の重要な構成要素である妹背山三断橋整備事業が始まりました。十七世紀中頃に造られた県内最古の三断橋は、全長が約四〇mもあり、三つの橋で構成されます。

中央部の橋は、最も高く大きく、二列の橋脚があり、両側の橋は、中央部に比べて小さく低く、一列の橋脚です。不老橋は、十九世紀のアーチ型の石橋ですが、三断橋も横から見るとアーチ型を意識したように見えます。

整備は、文化財建造物の解体修理と同じ手法をもちい、原則必要範囲のみを行い、出来るだけ現状の石を再利用します。石垣部分の孕みの修復、利用できない破損した橋脚や石垣を入れ替えなどです。全解体ではなく部分解体です。また解体に伴い内部構造がどうなっているのか発掘調査の手法を使い、図面・写真で記録を残します。まさに当センターでしか出来ない仕事です。

文化財建造物の解体修理の考え方は、基本的に節約の考え方で、継ぎ接ぎをしてでも本物を出来るだけ後世へ伝える事を、三断橋でも行っています。

(渋谷高秀)



写真2 東橋の橋桁組立状況



写真1 三段橋全景 陸地側より妹背山を望む

## きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

今朝の新聞各紙(二四年十一月二九日付け)は一面で大きく京都市埋蔵文化財研究所の発表した「平仮名の書かれた九世紀後半の土器片を発見」というニュースを取り上げていました。

当時の有力貴族・藤原良相よしみの邸宅跡の発掘調査で九世紀半ばから後半の特徴をもつ土師皿や高坏などに百五十字余りの平仮名が墨書されているのを確認したとのこと。これまで平仮名の確立は、「古今和歌集」や「土佐日記」の編集された十世紀前半にはいつてからというのが通説でしたからその通説を覆し、半世紀も遡らせる歴史的発見です。考古学のもつ物証性をいかななく発揮し、その有用性を如実に示した好例と言っていいでしょう。久しぶりのクリーンヒットでした。

ところで平仮名といえ、今年十月に亡くなられた丸谷才一を思い出します。敬愛する作家でした。いえ、彼の専門である英文学、とりわけジョイスに興味があったなどという高尚な話じゃありませんよ。彼の副業であった博覧強記にして軽妙洒脱な随筆のファンでした。仮名使用に関しても一家言をもつひとでした。誰よりも戦後のかな書き表記の論理性を欠いた見苦しさを嫌ったひとでした。亡くなるまで歴史的仮名遣いで通していましたね。それほど「かな」の魅力を愛しんだひとでもあったと思います。この新聞記事を読ませたかった。

それにしても「かな」の発明は画期的なことですね。文学の世界だけではなく、国風文化の成立は言うにおよばず、その後の文化全般、現代に至るまでその影響は計り知れません。借りてきた文字(漢字)だけだったら日本語がいか硬直し、浅薄なものになっていたか。少なくとも江戸期の遊里で交わされた数々の恋文はどれほど艶を欠いたものになっていたことか。それに何よりも會津八一は困っただろう――。

(村田 弘)

# 催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2012年冬～2013年春)

## (公財) 和歌山県文化財センター

### ●シンポジウム「農耕社会成立期の木工－立野遺跡を考える－」

本州最南端に近い西牟婁郡すさみ町立野遺跡で、弥生時代前期の流路が見つかり、木製品・石器・土器が大量に出土しました。シンポジウムでは木製品・石器・土器の分野でそれぞれ説明をおこない、農耕社会成立期の木工を考える上で貴重な遺跡である立野遺跡の位置づけを行いたいと思います。

日時：2013年2月23日(土) 12:50～16:30

場所：紀の国文化センター(和歌山市岩橋1271-1) 2階多目的ホール「紀郷の間」

申込不要/参加無料

## 和歌山県立紀伊風土記の丘

- 冬期企画展「くらしのなかの火と水」 2013年 1月19日(土)～3月10日(日)
- 古墳現地ガイドツアー②「大日山35号墳とその周辺をめぐる」 2013年 1月12日(土)
- 古墳現地ガイドツアー③「大日山22号墳とその周辺をめぐる」 2013年 3月2日(土)
- 古墳公開③「風土記の丘の古墳見学会～前山A67号墳とその周辺～」 2013年 3月16日(土)

## 和歌山県立博物館

- 企画展「和歌の浦の風景」 2012年12月8日(土)～2013年1月20日(日)
- 企画展「熊野水軍」 2013年1月26日(土)～3月3日(日)
- 企画展「文化財受難の時代－いかに守るか－」 2013年3月9日(土)～4月21日(日)

## 和歌山市立博物館

- 特別陳列「歴史を語る道具たち」 2013年1月16日(水)～3月3日(日)

## 高野山霊宝館

- 冬期平常展  
「前期」2012年12月22日(土)～2013年2月24日(日)  
「後期」2013年2月26日(火)～4月21日(日)

### 目次

- 1 表紙 竣工した長保寺多宝塔を西から見る
- 2 特集「文化財建造物竣工特集」
- 6 埋蔵文化財課 短信「田ノ口遺跡の発掘調査」
- 7 きのくに歴史小話「古建築修理の逸話 ③ 名勝和歌の浦 妹背山三断橋整備事業」  
「発掘屋余話 ⑩ ひらがな」
- 8 催し物案内

## 風車61 (2012・冬号)

平成24年12月28日

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp>

## (公財)和歌山県文化財センター 連絡先一覧

### 【事務局】

〒640-8404 和歌山市湊571-1  
TEL 073-433-3843  
FAX 073-425-4595  
maizou-1@wabunse.or.jp

### 【文化財建造物修理事務所】

◎金剛三昧院保存修理事務所  
〒648-0211 伊都郡高野町高野山425  
TEL/FAX 0736-56-5578